

# 英語科学習指導案

授業日時  
授業学級  
授業会場  
授業者  
指導教員

令和元年9月11日(水) 第1校時  
2年C組 男子19名 女子20名 計39名  
2年C組(303) 教室

1 単元名 Katherine さんに日本での生活についてアドバイスしよう。

## 2 本時の主眼

咲の相談と先生の回答について知る場面で、対話を読みペアでアドバイスしあったり日本で困りそうなことについて話し合ったりする活動を通して、Katherine さんが日本に来て困ったときのアドバイスについて話し合うことができる。

## 3 本時の位置 (全5時間扱い中 第3時)

<前時> Katherine さんがホームステイに来たら教えたい日本文化について話し合う。

<次時> Katherine さんが日本に来たら困りそうなことについて伝え合う。

## 4 指導上の留意点

- ・初めの言語活動で言えないという体験をし、再び同様の活動をして言えたという体験をする。

## 5 展開

過程	学習活動	予想される生徒の意識 (◎)	教師の支援 (・) と 評価	時間
導入	1. 対話を読み、ペアで対話に合うようにセリフを言い合う。 【ペア】	◎何が始まるんだろう ◎Aはホームステイに来た生徒の役だな。 ◎「多くて食べきれない」は「できない」だから I can't eat かな。 ◎「食べなくてはならない」はこの前習った have to を使うのかな。 ◎違う側はどんな内容なんだろう。 ◎先生の役になりきろう。 ◎「言わなければならない」は「～しなければならぬ」だから have to でいいのかな。 ◎上手くアドバイスできないな。	・AとB交代で目を伏せてスクリーンを見るようにすることで、互いの内容を知らずに対話することができる。 ・SakiとTeacherの異なる立場のシチュエーションを与えることで、ペアになりそれぞれの立場で与えられた内容について伝えることができる。 ・初めは何も知らない状態で対話するよう促すことで、既存の言語材料を引き出すことができるようにする。	5
		Today's Goal : ホームステイで困ったときのアドバイスをしよう。		
	2. 使った表現や言いたいけど言えなかった表現を出し合い、ほかの表現について学ぶ。 【全体】	◎ “I can't eat too much food.” ”Do I have to eat everything?”と聞いた。 ◎ “You have to tell your mother.” ◎言わなければならないって言えなかった。 ◎Do I have to~ではなく Should といってしまったけどこれでも通じるのかな。 ◎ “I'm sorry. The food tastes delicious, but I can't eat that much.”と言えた。 ◎断るときの表現はたくさんあるんだな。	・使った表現について尋ねることで、どんな言葉を言いたかったのかを振り返ることができるようにする。 ・どんなアドバイスがしたいかと問うことで、言いたい表現について気づくことができるようにする。 ・生徒から言いたい言葉を引き出した後に英語では何と言えるかと尋ねることで、生徒自身の言葉で表現できるという経験にできるようにする。 ・断るときの表現について様々な言い方を提示することで、次にペアでいうときの選択肢を増やすことができるようにする。	10

展 開	3. 再度ペアでセリフを言い合う。 【ペア】	◎さっきは言えなかったけどアドバイスできた。 ◎言いたい言葉を変えて言うことができた。 ◎もう一度別の表現を使って挑戦したいな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前よりも言える表現が増えたか尋ねることで、成長やまだ慣れる必要があるなどと感じることができるようにする。</li> <li>教科書の本文ではサマースクールの先生が咲にどのようにアドバイスしていたか問題意識を持つようにすることで、教科書を音読できるようにする。</li> </ul>	5
	4. 教科書を音読して先生が咲にしたアドバイスを読み取る。 【全体】	◎たくさん出してくれるっていうのは“gives me too much food”というんだな。 ◎“You must tell your host mother.”というといいんだな。 ◎最初に謝罪して、料理をほめてから自分の気持ちを伝えていたな。 ◎さっき言えなかった表現を言うことができずスッキリしたな。 ◎アドバイスを言うのはまだ難しいな。 ◎ほかの断り方や自分の気持ちを伝える表現もあるのかな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の音読に続いて音読するよう促すことで、発音の仕方や意味ごとの区切りを知ることができるようにする。</li> <li>導入の対話に当てはまる部分では何と聞いていたかと問うことで、ギャップを感じた表現について改めて気づくことができるようにする。</li> <li>再度同じペアで同じ役でやるようにすることで、表現できるようになったということを感じられるようにする。</li> <li>インタラクションしたりやクイズを出したりすることで、内容が理解できるようにする。</li> <li>班になり順にカードを引いて命令文を言うようにする事で、全員がmustの文を作成できるようにする。</li> </ul>	10
展 開	5. 班でMustゲームをする。 【全体】【グループ】	◎王様ゲームみたいだな。 ◎カードに書いてある動詞を使って命令文を作ればいいんだ。 ◎you must dance for 5seconds.	<ul style="list-style-type: none"> <li>嫌いな食べ物を出された場面を提示することで、前の対話を参考にして適切なアドバイスを想起できるようにする。</li> <li>メモを作成するよう促すことで、メモをもとに相手に伝えられるようにする。</li> </ul>	5
	6. ペアになり、ホームステイで嫌いなものを出されたときの対話をする。 【ペア】	◎最初の対話みたいだな。 ◎さっきはなんていったっけ。 ◎どうやって断るのがホストマザーに失礼じゃないんだろう。 ◎言わなくてはならないはmustだったな。 ◎嫌いはI don't likeだよな。 ◎私は鶏肉が嫌いだからI don't like chicken.かな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>嫌いな食べ物を出された場面を提示することで、前の対話を参考にして適切なアドバイスを想起できるようにする。</li> <li>メモを作成するよう促すことで、メモをもとに相手に伝えられるようにする。</li> </ul>	10
終 末	7. 振り返りを書く。 【個人】	◎ただ~しなくちゃいけないというのは簡単だけど、その理由や背景までは知らないものもあったな。 ◎さらに英語で説明しようとするのが難しいのもあったな。 ◎友達の前表現はほかのアドバイスについても使えそうだな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>悩みやアドバイスについて言いたかったけど言えなかった表現や不明だった部分について調べるよう促し、次回の活動で今回よりも充実した内容が話することができるようにする。</li> </ul>	5

## 6 板書計画

Today's Goal Katherineさんが日本に来て困ったときのアドバイスを話し合おう。			
A 表現	B 表現	断る 表現	スクリーン

準備するもの
・スクリーン
・ワークシート(39枚)
・PC